奇縁 No.72

発　　行　一般財団法人　田澤記念館
住　　所　佐賀県鹿島市大字高津原434番地
発行責任者　平野重徳・小池幸照
発 行 所　鹿島印刷株式会社
発 行 日　2017年10月10日

明治維新150年記念さが維新事業
～佐賀県の偉人として田澤義鋪を顕彰～

佐賀県の山口知事は、２０１８年に明治維新１５０年を迎えるにあたり、幕末・維新期の佐賀が、明治維新に大きく寄与し、日本の近代化をリードするトップランナーであったことを多くの方に知ってもらい、佐賀県民や県出身者の誇りを醸成するとともに、今後展開していく明治維新１５０年の記念事業を盛り上げていくことを発言し、市町及び民間団体が実施する佐賀の偉業・偉人の顕彰及び先人たちの「志」を次世代に継承するための取組を支援することにより、佐賀への愛着及び誇りの醸成と地域づくりに取り組んでいくことを発表しました。

そこで、鹿島市教育員会から田澤記念館に田澤義鋪を顕彰する大会等を鹿島市と共同で行うよう依頼があり、9月12日（火）理事会が開催されました。そこで、次のような取組をしてはどうかと提案が出され、承認されました。

1　期日・場所　　平成30年7月２２日（日）
　　１３：００～１７：００　エイブルホール
2　田澤義鋪の劇（佐賀の八賢人おもてなし隊に依頼）
3　田澤義鋪についての講演
　（桜の聖母短期大学　准教授　三瓶千香子氏）
4　鹿島市の伝統芸能（大人）

（力強く演説しているような銅像になる予定）

＊財政難の打開策＊
人材育成を応援団体に助成金　トリカイ基金に応募

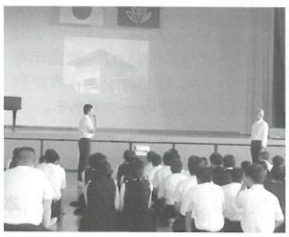
公益財団法人佐賀未来創造基金（山田健一郎理事長）は7月26日、基山町の鳥飼建設（鳥飼善治社長）の寄付でつくられた「トリカイ人づくり応援基金」から田澤記念館に助成金計20万円を贈った。人材育成に意欲的な団体を支援し、地域おこしを後押しする。

本年度は「一般財団法人田澤記念館」（鹿島市）の地元企業社員らに年間を通して研修を施すユースカレッジ事業が対象となった。

基山町民会館であった贈呈式で鳥飼社長は「国からは地方創生のお金が各自治体に来ているが、生かすには受け皿となる人材が必要。人をつくり、人を残す取り組みを期待している」と述べた。（佐賀新聞 8月2日より抜粋）

田澤記念館の小池幸照代表理事（左）に助成金目録を渡す鳥飼建設の鳥飼善治社長

中学校での 田澤義鋪 出前授業
（太良町立多良中学校）



昨年から始めた出前授業が軌道に乗り、鹿島市内の全小学校から嬉野市や太良町でもできるようになりました。理解ある教育長さんで、「しっかりと伝えて下さい。」と励ましの言葉をもらいました。

多良中学校では全校生徒１３５名に体育館で５０分の授業でした。小学生・中学生時代のエピソードを中心に授業が展開されました。また、「錦を着て郷土に帰ることを願う前に先ず郷土を錦とすることを願え」の言葉を説明するとき部活動や学級活動の体験を交えながらの具体的な話で、生徒達は目を輝かせて熱心に聞き入っていた。

田澤義鋪の精神を繋ぐ鹿島連合青年団の頑張りII

8月20日(日)青年団主催の木工教室が田澤記念館でありました。田澤少年クラブや一般からの参加で約20名が作業に取り組みました。最初に竹下青年団長の挨拶があり、次に田澤義鋪と青年団について安永館長から説明がありました。

子ども達は、夏休みの宿題の立体作品として熱心に取り組んでいました。古賀真一団員の父親であり、大工の棟梁の古賀幸勇さんも駆けつけて、青年団と一緒に子ども達へ指導をしていました。少ない青年団(7名)ではありますが、子ども達と仲よく笑顔で接し、言葉や態度で青年団活動(社会教育)の一部を見せていました。作業しながら子ども達が一番目を光らせていたのは、ノコギリ引き体験でした。初めての子ども達も多く大声を上げながら活動していました。

鹿島連合青年団は、鹿島市内の色々な行事の裏方(田澤精神)として定例会議で意思の確認をしながら、土日もなく頑張っている姿に頭が下がります。

ユースカレッジ研修講師は 地元 森鉄工(株)専務 森 孝信氏

4回目となる研修は、研修生の直接の上司である、森鉄工の森専務に**「人との出会い」**という演題で話をしていただいた。森鉄工(株)の歴史について、ユーモアを交えながら、研修生の心に響くように話され、すばらしい内容であった。やはり、現場の声は研修生にしっかり伝わり、あっという間の90分であった。「差を感じるな、違いを出せ」「人と共に、出会いと共に」という言葉が感想にでていた。聞いていて、まさに「下町ロケット」のようであった。鹿島市を錦に飾る、田澤精神が残る会社の一つである。

平成29年度『田澤少年クラブ結成式』

平野重徳会長、小池幸照代表理事、保護者の皆様のご参加をいただき、第27期田澤少年クラブ結成式を5月14日(日)に開催しました。平野重徳会長から田澤の精神についてのご講話がありました。

今年度は、初めての参加が10名で、全部で17名(鹿島小11,北鹿島小1,能古見小3,川上小2)のクラブ員となりました。田澤精神の「友愛」「創造」を柱として、自分のことは自分で行う、分からないときは先ず考え、それでも解決できないときは仲間に尋ね、それでも解決できないときは大人に聞く、そして相手のことを考えた行動をとるということを活動目標にしている。また、全て活動を自主的に行うよう班長や代表者も日替わりで意欲ある立候補制で行い、立候補できないときは、指名して4年生でも経験をさせていく予定である。それに、活動後には反省(振り返り)を行い、次へのステップへと成長させていくことを願っている。待ちの姿勢で無く、失敗を恐れず意欲ある活動を期待している。

著書寄贈

名古屋工業大学　上原直人　准教授　「近大日本　公民教育思想と社会教育」

田澤義鋪・下村湖人は社会教育の歴史でも特に重視されてきた人物ですし、私も今回の研究を通じて両者の存在の大きさを改めて感じました。(上原直人准教授からの手紙から抜粋)